

サクラの開花が今年は例年より早いと報じられ、昨日は広島で、本日は福岡で、東京は3月15日の開花予想だとのこと。春らしい天気になってくると、知らず知らずサクラのことが気になります。「植物からの贈り物」や「三谷のブログ」で何度か桜について取り上げてきましたが、今年もサクラについての集約として整理してみたいと思います。

(過去のエッセイもタイトルを紹介しますのでご参照ください。)

- \*「日本人と花見について」2012. 05. 07
- \*「枝垂桜シダレザクラについて」2013. 04. 01
- \*「花見を楽しむ文化」2016. 04. 01
- \*「ソメイヨシノにまつわる情報整理」2018. 03. 07
- \*「サクラの季節が近づきました」2020. 03. 10
- \*「ソメイヨシノの開花によせて」2020. 03. 27
- \*「令和を彩る京都の桜」2020. 04. 14

### 1. 日本における桜の三大名所とは

- ①吉野山 シロヤマザクラなど 200 種 3 万本が咲き誇る。(下千本、中千本、上千本、奥千本)
- ②弘前公園(青森県) ソメイヨシノ、枝垂れ桜、八重桜など 52 種 2600 本、明治 15 年植栽の日本最古のソメイヨシノが現存する。(幹周5m)
- ③高遠城址公園(長野県) コヒガンザクラの樹林が天然記念物 1500 本

### 2. 三大桜とは…一本の桜の樹が名桜として指定されたもの…いずれも樹齢 1000 年以上

- ①三春滝桜(福島県)…ベニシダレザクラが四方の枝から滝が流れるように咲き誇る。根周り11. 3m
- ②神代桜(山梨県)…エドヒガンザクラ、樹齢は 1800~2000 年、根回り10. 3m
- ③淡墨桜(岐阜県)…エドヒガンザクラ、つぼみは薄ピンク色、満開で白色、散り際には薄い墨色になる。樹齢1500 年余り、高さ 15m

### 3. ソメイヨシノについて

- ①幕末に江戸の染井村の植木屋が「吉野桜」として販売し全国に広まった。
- ②明治時代に奈良吉野のヤマザクラとの違いが明らかになり、「染井吉野」の和名が 1900 年につけられた。
- ③1995 年に京大研究者らが全国で採集した個体の遺伝子を調べて、すべて遺伝的に同じクローンだということを見出した。
- ④ソメイヨシノの起源は母方がエドヒガンであることは知られていたが、2014 年に森林総研の勝木博士らが遺伝子の組み合わせによる手法から、父方がオオシマザクラであることをつきとめた。
- ⑤1912 年に日本がワシントンに送ったソメイヨシノの苗木は、ポトマック河畔で 100 本ばかりが生存しているという。
- ⑥開花時期を示す桜前線は、地球温暖化の影響など、気象変動の理解にも役立っているといえるが、クローンであるからこそ桜前線として比較対象にできる所以である。いってみれば全国津々浦々に配置された生物気象観測レーダーとして、気象予報士が毎朝取り上げてくれることになっている。
- ⑦クローンであるが故の弱点として、一つの病虫害が一気に大流行しかねない怖さもはらんでいる。

最近中国原産の外来種「クビアカツヤカミキリ」という特定外生物による被害も拡大しつつあると報じられている。昨秋訪問した吉野ではそのあたりの変化には気がつかなかったが、もし吉野のさくらにこの虫の被害が及べば大変なことになる。幼虫が幹の内部を食い荒らし、突然枯れてしまう現象で、ナラガレに似た状況になることが懸念される。

#### 4. クマノザクラについて

- ①紀伊半島南部に群生し、日本のサクラの野生種として、2018年3月13日に、100年ぶりに新種と確認されたクマノザクラの観察会が「古座川桜フェア」のイベントで、同町在住の樹木医矢倉寛之氏による解説で開かれたとTVで報じていた。
- ②桜は日本人の心に深く根づいた植物であり、昔から人の手によって何度も育種交配が行われており、100種類以上が流通している。
- ③昔から日本に自生していて、その誕生に人の手が関わっていない桜は9種あり、この9種目が発表されたのは100年以上も前のことであり、日本ではもう新しい野生種が発見されることはないと言え思われていた。
- ④その10種目がクマノザクラである。自生する10種は以下のとおり。
  - i タカネザクラ(別名ミネザクラ) 亜高山帯
  - ii ミヤマザクラ 亜高山帯 総状花序
  - iii オオヤマザクラ(別名ベニヤマザクラ、エゾヤマザクラ)
  - iv チョウジザクラ
  - v マメザクラ マメザクラとカンヒザクラの交配による園芸種がオカメザクラ
  - vi オオシマザクラ 桜餅を包む皮として葉を利用する。オオシマザクラとカンヒザクラの自然交配でうまれたのがカワズザクラである。
  - vii カスミザクラ(別名ケヤマザクラ)
  - viii エドヒガン(別名シダレザクラ)
  - ix ヤマザクラ(別名シロヤマザクラ)
  - x クマノザクラ **紀伊半島南部**
- ⑤クマノザクラは、紀伊半島南部、熊野川流域を中心に南北90km、東西60kmの限られた範囲に自生している。熊野市、十津川村、田辺市や古座川町など。  
この地域ではクマノザクラは生活に密着しており「この辺のヤマザクラは2回咲く\*」といわれたほど、親しまれたもので、身近すぎてそれが未発見の桜であると気づくことができなかったというわけである。ヤマザクラの個体変異かもしれぬと思われていた。  
\*クマノザクラは開花時期がヤマザクラよりも早いから。
- 和歌山県古座川町では従来ヤマザクラを町の花としていたが、2018年にクマノザクラを町の花に指定替えしたそうだ。昨日のTVでクマノザクラの開花を報じていた。
- ⑥クマノザクラの発見者は森林総合研究所の勝木俊雄博士
- ⑦クマノザクラの特徴
  - i 枝が細く柔らかい樹形はとてもやさしい雰囲気を持っている。
  - ii 開花時期が早く、自生地では2月中旬から咲き始め、3月中旬から下旬が見頃
  - iii 葉が開くよりも先に花が咲く。
  - iv 花色は白～淡紅色
  - v 自生地では単木より、株立ちが多くみられる。

以上